平成 26 年度　帰国隊員/青年支援プロジェクト　実施報告書　　提出日　2015　年　8 月　31 日		
氏名：　大阪まるみ	実施国：パナマ共和国	調査研究
活動名称	パナマ農村部の民芸品生産者支援の在り方と原料植物枯渇問題への対応	
実施期間	2014 年　9 月　18 日　～　2015 年　8 月　22 日	

（1）申請した動機

申請者は 2011 年 3 月から 2014 年 3 月までの 3 年間、国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊員として、パナマ共和国環境庁に配属され、環境教育隊員として農村部の住民支援に携わった。
活動内容は、主に、農村部の女性グループを対象に「環境に配慮した生活改善」をテーマに活動を開始し、その売上と、活動への参加、技術の習得などを通して生計、生活の向上を目指した。具体的には、捨てるはずのものを材料にしてメンバーが商品開発をし、販売を行った。
特に、商品開発の分野では、メンバーが伝統的な民芸品の技術を応用して、ピアスや籠、バッグなどの新たな商品を提案、作成し、その緻密な作業と技術力の高さに驚かされた。
民芸品は、農村部の女性たちにとって、家事労働や子育ての合間にできる重要な現金収入源であった。しかしながら、そのような技術を持ちながらも、それを現金収入として頼れない理由のひとつとして、伝統的な民芸品（パナマ帽、モテテと言われるかご、チャカラと言われる肩掛けバッグなど）の原料植物の減少、及び枯渇に直面しており、年々資源へのアクセスが難しくなっているという現状があった。
現在パナマ共和国においては、多くの熱帯途上国地域と同様に、森林伐採や森林減少については関心が高く、多くの植林プロジェクトが実施され、コミュニティフォレストリーなどが各所で見られるが、民芸品の原料植物のような、木材資源以外の資源については多くの場合見過ごされてきた。また、多くの場合男性グループが主体であり、女性の関与は少数である点でジェンダーの問題も散見される。
現在は、住民の要請などによって環境庁の支援を得て、非常に小規模な民芸品原料植物の育苗プロジェクトなどが行われているが、限定的である。
この問題意識を発端にして、新たな農村支援の在り方を考察する必要性があると考えるに至ったのが動機である。

（2）活動内容概要

活動内容としては、パナマ共和国コクレ県北部の山村地域において 2014 年 9 月 24 日から 12 月 18 日と 2015 年 6 月 9 日から 2015 年 8 月 22 日までの 2 回のフィールド調査を実施し以下 3 点について調査を行った。

1）地域住民の生業動態及び植物資源の現状を把握するための調査。
住民へのインタビュー、参与観察、生活時間配分の調査などによって、民芸品の生産地である対象コミュニティの生業を含めた生活全般を明らかにする。
具体的には、地域住民の家族構成、生業、土地所有、出稼ぎ状況、教育、原料植物へのアクセス、民芸品生産等を調査した。

2）民芸品流通に関わる仲介者など外部のステークホルダーに関する調査。
地域で生産された民芸品がどのように流通しているのか、買い付けや販売を仲介者がどのように行っているのかを調査し、仲介者の役割を明らかにする。

3）枯渇・減少資源である民芸品原料植物の育苗プロジェクトや民芸品生産者グループ支援プロジェクトを行っている外部者（パナマ環境庁、運河庁等国内の組織だけではなく、協力隊員の活動も調査対象とする。）に関する調査。
実施中または終了したプロジェクトの報告書やプロジェクト実施者へのインタビューを通じて、対象地域にどのような影響があったのかを調査した。

(3) 活動の成果・苦労した点・反省点等

成果

1) 地域住民の生業動態及び植物資源の現状を把握するための調査。

→農業を中心として、民芸品生産、ミシン仕事、お使い、農作業の手伝い、出稼ぎ、民芸品の原材料植物の販売、小規模な店の経営など複数の生業を組み合わせて生計をたてていた。

原料植物は減少しているかは明らかにならなかったが、民芸品生産が盛んになる中で需要が増加していることがわかった。

2) 民芸品流通に関わる仲介者など外部のステークホルダーに関する調査。

→民芸品の流通に関しては、過去に実施されたパナマ商工省や NGO の民芸品生産者支援プロジェクトによって仲買をする人や、そこで得た染色技術をもとに原料植物の繊維の販売をはじめた人が複数現れたが、利益を守るためにその技術は家族だけの秘密にされており、技術の専有が起きている。

また、プロジェクト時代の生産者グループは存続しているものの、実態としての活動はほとんどなく個々で活動している。

プロジェクト時代にそれぞれが入手した販売ルートを利用して、家族中心の新たな非公式のグループを構成して生産活動及び仲買を行っていた。

3) 枯渇・減少資源である民芸品原料植物の育苗プロジェクトや民芸品生産者グループ支援プロジェクトを行っている外部者に関する調査。

→2000 年代初期からパナマ商工省、NGO、環境省などが民芸品の技術支援(グループの組織、染色技術、商品開発、販売機会の提供等)を行ってきたが、現在は支援対象となるグループ自体の活動が希薄になっていること、予算がないことなどから調査対象村においては民芸品に関する支援は民芸品販売機会の提供以外は行われていない。

反省した点・苦労した点

二回目の本調査の予定が、手続きの関係で大幅に遅れてしまった。また、民芸品の原料植物の現状に関する調査が思うように進まず苦労した。

また、民芸品に関する技術(特に染色や一部のデザイン)は、利益を守るためにある一定の親族内での秘密にしていることで、外部者である自分が信用を得るまで時間を要した。

また、過去の経緯などを聞き取りする際に「昔」がいつであるかを特定することにも苦労した。

調査村の人々の利害関係を把握するのにも時間を要した。

(4) 今後のプラン

今回得たデータをもとにこれから本格的に修士論文の執筆を始める。データの分析を行い、理論枠組みを構築していく。

今回、調査対象村において、民芸品生産者の貴重なライフヒストリーを聞くことができたのでその語りも含めて分析を行っていき、民芸品が住民にとってどのような位置づけなのかを過去の歴史や経緯も視野に入れて分析していきたい。

今回収集したデータは修士論文のみならず、将来的に国際協力に関わっていく中でも、対象地域の資源をその地域に適した形で利用するにはどうしたらよいのかというテーマの一つの答えとして今後の活動に生かしていきたい。